

AHP 事例集

日科技連出版社 1990年7月 定価 3000円

この本は、日本におけるAHPの事例を集めたものである。AHP(ANALYTIC HIERARCHY PROCESS)は、ピッツバーグ大学のT.L.サーティ教授により1970年代に開発された、あいまいな状況下での意思決定を支援する手法の1つである。

サーティ教授は、1984年に東京で行なわれた国際経営会議で、この方法について日本で初めて講演したが、(株)日本オペレーションズ・リサーチ学会では、いち早く「意思決定研究部会」(略称:AHP部会)を設けて研究と普及に着手し、日本科学技術連盟や計測自動制御学会でもこの手法の紹介を行なった。

この結果、AHPは、日本では、比較的短期間で関係者の間に普及したわけであるが、日本での事例を集めた書物は、発行されていなかった。

その意味では、日本において、AHPの研究と普及に力を注いでこられた2人の先生方の編により、本書が発行されたことは、まさに時宜を得たものといえよう。

本書は3部からなっており、第1部はAHP手法の概要、第2部は18編の事例、第3部はAHPに関する最近の理論と適用上の諸理論となっている。したがって、AHPについて、仮に何も知らなくても、これ1冊を読めばほぼ概要をつかむことができる。

本書の中心となっている事例は次の18例である。

1. 建設工事における最適工法の選定
2. 原子力施設モデル工場のプロセス機器選定
3. ワークステーションの機種選定
4. 技能訓練の完成度評価
5. セールスマンの成績評価
6. 新エネルギーシステムの評価
7. 公共交通システムの選択
8. 市街化適性の地域的评价
9. 街路樹の選定
10. ダムゲートの寿命診断エキスパートシステム
11. CAD/CAM機種選定エキスパートシステム
12. アンケート調査による要求品質の推定
13. 工業生産住宅の機能展開
14. 日本語ワープロソフトの評価

15. 製品の使いやすさの評価
16. 工務店の選定
17. 株式投資分析
18. コンピュータ選定と合意形成

このように公共部門、民間部門から個人的問題まで、広い範囲の事例が集められている。また、エキスパートシステムの中にAHPが取り入れられている事例も集められている。

事例にもあるとおり、AHPは、組織的に意思決定しなければならない問題ばかりでなく、個人的に、自分だけの意思決定をする場合にも役に立つ方法である。(たとえば、上記5.の人事評価の事例はなかなか興味深い)もし、AHPをまだ使ったことがなければ、組織の問題に使う前に、これらの事例を参考にして、まずは、個人としての意思決定に、ぜひAHPを使うことをお奨めしたい。これまで、明確に認識されていなかった、自分の意思決定の構造が浮かび上がってくる。それらを見て、いろいろ考察を加えることにより、自分の意思決定のレベルが上がるのが実感されると思う。

ところで、組織での意思決定にこのような方法を持ち込もうとした時、(組織により相当違いがあるとは思いますが)日本の社会では、まだまだ抵抗が大きいというのが一般的な状況ではないだろうか。もしそうであるとするならば、ここで組織での事例として上げられたものは、その関門をくぐり抜けて実施されたものであろう。日常、ORをいかに組織内で役立てようかと苦心惨たんしているORマンにとって、「ORの実施」という観点から、そのあたりの事情も(難しい面があると思うが)一筆書き加えてもらっていただければさらに良かったのではないだろうか。

しかしそれはそれとして、本書は、日本でのAHPの事例集として、バラエティに富んだものとなっており、AHPを実際に役立ててみたいと考えている人にとっては、非常に示唆に富んだ内容であり、貴重な資料になると思われる。多くの人が本書を読まれ、意思決定の1つの方法としてのAHP活用のヒントとされることを期待したい。

(大村 雄史)